

トゥインクルレース（ナイター競馬）では、ライトが照らされたコースで鍛え抜かれた競走馬が疾走する姿を堪能できる。写真左奥には改築前の2号スタンド。2号スタンドは惜しまれつつ7月上旬に閉鎖した



ワクワクする競馬場づくり

～地方競馬のトップを走り続ける 東京シティ競馬（大井競馬場）の取組～

26年連続、売得金・入場者数が全国公営競技場でトップを維持しつづける
東京シティ競馬（以下、「TCK」という。）。

来年は、東京23区が競馬開催権を得て競馬事業をスタートして65年、
再来年にはトゥインクルレース開始30周年を迎えます。

これまでのTCKの歩みを振り返るとともに、現在の取組、将来に向けてのビジョンをご紹介します。

大井競馬場の歴史

昭和25年5月2日、大井競馬場の開場式が行われました。東京大空襲により焼け野原となった東京23区の戦後復興のための財源確保が、大きな目的のひとつでした。

大井競馬場は財政寄与だけでなく、日本の競馬の発展のために数多くの「日本初」に挑戦してきました。騎手が着用する騎手服を騎手ごとに改め、枠別の帽色（1枠は白、2枠は黒など）を指定するなど、現在では馴染みとなっている事柄のなかにも大井競馬場で初めて導入されたものが数多くあります。ほかにもスターティングゲートの採用や投票方法にも、大井競馬場発祥のものがたくさんあり、競馬をご存じの方には定番の馬番号連勝単式（馬単）、馬番号3連勝複式（3連複）や馬番号3連勝単式（3連単）などの発売も初めて導入したものです。

また、競馬をギャンブルからレジャーに変える契機となった日本競馬史上初の夜間競馬（トゥインクルレース）の実施は、現在の大井競馬場の礎になっています。

このように挑戦し続けているTCKは、平成25年度全国公営競技場の1日平均売得金額で1位となり、これで26年連続トップとなりました（1日平均9億3863万7000円、前年比103・9%）。

収益金の主な拠出の状況(1億円以上)		拠出金額
昭和36年度～39年度	東京オリンピック協賛	410,889,940円
昭和49年度	沖縄国際海洋博協賛	330,000,000円
昭和49年度～50年度	自治医科大設立	220,000,000円
昭和51年度～53年度	八丈町災害復旧	566,226,000円
昭和57、59年度	国際科学技術博協賛	145,000,000円
昭和62、平成元年度	国際花と緑の博覧会協賛	234,050,000円
平成5年度	TAMAらいふ21協賛	500,000,000円

〜東京23区の福祉の向上のために〜
TCKは、競馬開催の目的のひとつである地方財政に寄与するため、事業収益から東京23区に特別区分配金を分配しています。平成26年度までの間で、特別区競馬組合から主催者である東京23区に対し分配した利益分配金総額は、1903億5132万円にのぼり、東京23区の福祉の向上に貢献しています。

また、昭和36年度に東京オリンピックへの協賛として、1億円を資金財団へ拠出して以来、各種国家的行事や災害復旧事業に拠出してきました。

10月24日「スマイルシティ品川特別」品川区・濱野健区長（右から4番目）、石田秀男区議会議員（左から5番目）TCKが東京23区の主催であることをPRするため、「東京メトロポリタンウィーク」と称して、東京23区にスポットを当てた開催を毎年行っている。写真は今年の第一弾（10月20日から24日まで）の表彰式の模様。第二弾は11月24日から28日まで実施した。



TCKでは、東京23区とTCKとのつながりを広くアピールするため区名や地域の名称を競走名につけてこれらで実施してきました。平成25年度からは「東京メトロポリタンウィーク」と称し、TCKが東京23区の主催であること、東京23区民にとって身近な遊技場であることをさらに広報するため、特定の開催期間を東京23区一色にしてPR活動を行っています。

今年は、10月20日から24日までと、11月24日から28日までの併せて10日間、東京23区にスポットを当てて開催しました。

第一弾は、10月20日から24日までの開催期間中に10区にご協力いただきました。東京23区にちなんだレース、物産の販売、ゆるキャラの登場、表彰式の実施で、場内は大いに盛り上がりました。

第二弾は、11月24日から28日まで実施し、13区にご協力いただきました。

（第二弾の模様は、1月号の区政会館だよりの特別区競馬組合トピックスページでご紹介します。）

TOKYO TWINKLEとは

TCKは、都心から近いという立地条件を生かし、昭和61年に国内初となる夜間競馬「トゥインクルレース」をスタートし、平日の夜に都心で仲間や家族と気軽に競馬を楽しめるコミュニティメントスポットをめざしてきました。この原点に立ち返り、平成25年度からのスローガンは、「TOKYO TWINKLE」とし、生の迫力ある競馬に加え、イルミネーションやグルメ、イベントなど、「競馬プラスα」の楽しさを味わえるエンターテインメント施設として、さまざまな取組を展開しています。

特に、トゥインクルレースのハイシーズン（7〜9月）には、話題性・発信力のある大きなイベント、プロモーションを展開するとともに、開催ごとのテーマに合ったきめ細かなイベントを実施し、大井本場へのお客様の来場を誘致しています。

今年のTCKの顔

今年のキャッチフレーズは「夜遊びしようぜ」。TCKイメージキャラクターには俳優の三浦春馬さんを起用しました。さわやかなイメージの三浦さんですが、今年のTCKのCMやポスターではワイルドな魅力を見せており、多方面で大きな反響を得ています。

また、「夜遊びしようぜ。」という斬新なフレーズが、特に若い世代の方に好評いただいています。年末の一番・東京大賞典のCMでは、これまでとは違った三浦さんの表情を垣間見ることができまますので、こちらもご注目ください。

今後も、TCKは新たな風を競馬界に吹き込んでいきます。

今年充実していく場内イベント

今年の夏の「大井オクトバーフェスト」は、昨年を大幅に上回る来場者数となりました。「競馬」と「ドイツビール」という組み合わせが見事にマッチし、「せっかく競馬をするならビールも楽しもう」「ビールを飲むだけでな

今年充実していく場内イベント

く競馬を観て盛り上がる」という「プラスα」の楽しさを求めるお客様にご来場いただきました。

年末は、冬の寒さも吹き飛ばす暑い「ラーメン」をキーワードに、ラーメン人気店を一堂に会して「TCKラーメンサミット2014」を実施し、「プラスラーメン」でお客様を温かくお迎えします。

さまざまな「プラスα」で、お客様にお楽しみいただけるよう毎年充実したイベントを提供し続けます。

鮮やかなイルミネーション

大井競馬場内を鮮やかに彩るイルミネーションは、夜間競馬を華や



▶正門前のハイセイコー馬像のイルミネーションは、来場記念フォトスポットとして好評

▼場内を鮮やかに彩るイルミネーション。今年は音、水、炎が連動するダイナミックな演出となっている



かに盛り上げるTCKの象徴です。今年「TCKイリュージョン R.Y.U.S.E.I.」と題し、オブジェに音(三代目J-Soul Brothers her s from EXILE TRIBEが歌うTCKイメージソング「R.Y.U.S.E.I.」、水、そして炎が連動するTCK初のダイナミックな演出を加え、幻想的なイルミネーションをお届けしています。点灯中に炎が上がる演出には、お客様から驚きの歓声が沸きあがり、コース前は大変にぎわいます。

正門前のハイセイコー馬像にも七色に光るイルミネーションを施しており、来場記念フォトスポットとして好評いただいています。

親しみやすいTCKへ

これまで以上に多くの方にTCKを知ってもらうため、公式ホームページのほかにフェイスブック、ツイッター、YouTubeで、レースやイベント情報などの画像や動画を展開しています。普段は見ることのできない騎手や誘導馬など競馬スタッフのフットショットの投稿や、タイムリーなイベント情報を増やしたことで、フォロワー数が増えています。

お客様にとつてより身近な存在となるため、さまざまな情報発信ツールを活用して、今後も有用な情報を提供していきます。

TWINKLE

30周年に向けて

昭和61年7月31日、多くの関係者の理解と協力を得て「トウインクルレース」が開幕しました。

TCKの代名詞となった「トウインクルレース」の長い歴史はここから始まりました。

初年度は25日間の開催でしたが、平成26年度は12月26日までに83日のナイター開催(そのほか薄暮及び昼間開催が20日間あり)を予定しています。

そして平成27年度は新スタンドのオープン・JBC開催・開場65周年、平成28年度は、トウインクルレース開始からいよいよ節目の30周年を迎えます。

新スタンドで数々のドラマが生まれる

長年TCKのドラマチックなレースを見守ってきた2号スタンドが、老朽化に伴い今年7月に閉鎖し、解体されました。新2号スタンドは、JBC開催に併せて、来年10月中旬の完成をめざしております。地上3階建、客席は約1800席、そして、お客様に快適な空間で競馬を楽しんでいただけるよう今までの観戦席の概念を超えた「ラグジュアリーシート」を計画しています。この新スタンドがTCKの新しい顔となり、多くのお客様に満足していただける空間となることを期待しています。

また、来年のJBCと東京大賞典の開催終了後の平成28年1月から、3号スタンドの解体作業に着手し、平成28年10月に大井競馬場はリニューアルします。

たくさんのお客様に喜んでいただくため、これからもTCKは変化し続けます。

ダートの祭典・JBC

ダート競馬の祭典と呼ばれる「JBC(ジャパンブリーダーディングファームズカップ)競走」。日本の競馬全体の発展を図ることを意図し、地方競馬を中心に行われているダート競走にチャレンジャーを設けるためJBCは計画されました。JBCは、地方競馬の祭典であり、全国のダート競馬のトップホースを一同に集め、距離・性別などさまざまなカテゴリーにおける最上級のレースを1日に3競走実施します。JBCの開催競馬場は持ち回り制となっており、ハイレベルで魅力あるレースを全国のお客様に観戦してもらうことを目的としています。

平成13年の創設以来、これまで14回実施し、TCKでは創設年を含めて5回実施しました。全国に地方競馬場が12場(ばんえい競馬を除く)あるなかで、TCKが数多く実施競馬場として選出されたのは、地方競馬の中心として活動しているからであると自負しています。

JBC競走の締めくくりは、中距離の2,000mで行われるJBCクラシック
(優勝馬・コパノリッキー)



▲ダート競馬の祭典と呼ばれるJBC競走。今年は岩手県盛岡競馬場で12年ぶりに開催された。平成27年は新2号スタンド完成後の11月3日に大井競馬場で行われる。

平成27年、4年ぶりにTCCKでJBCが開催されます。
地方競馬の代表として、これまで以上にこの祭典を盛り上げ、お客様に喜んでいただけるよう、職員一同、全力でJBC開催に取り組んでいきます。

午年の最後に最大のレース「東京大賞典」

年末には、国際交流競走G1「東京大賞典」という大きなレースを控えています。JRAのスターホースと地方を代表する駿馬がダートで覇を競う、文字どおりこの年最後の一番です。

このレースの昨年の売得金は47億873万500円、前年比115・8%増で地方競馬歴代1位となる記録的なものでした。

また、昨年の東京大賞典当日の大井

競馬場入場者数は4万1410人で、こちらも前年比116・3%の増加となりました。今年は、海外馬が出走する可能性もあることから、さらなる盛り上がりが見込まれています。

さらなる高みをめざして

特別区競馬組合は、競馬事業における収益が東京23区への財政に貢献できるよう努めるとともに、TCCKが東京さらには日本を代表するアマムーズメントスポットとなるために、これからも次の指針を掲げ挑戦し続けます。

○国際レースをはじめ、お客様に満足していただけるような魅力あるレースを提供する。

○お客様に心から楽しんでいただけるイベント・広報活動を展開し、「TCCKに行けば必ず楽しいことがある」というワクワク感を伝え、顧客満足度のさらなる上昇をめざす。

○お客様の意向をよく聴き、多様なニーズを満たすことで、質の高いレジャーとしての競馬を提供する。

TCCKは、東京23区との連携を密にしながら、顧客満足度の向上をめざし、一人でも多くのお客様にTCCKの魅力を知ってもらい、競馬観戦を楽しんでいただけるよう、職員一同、全力で取り組んでいきます。

皆さまのご来場をお待ちしています。

